

《原 著》

## 全身 FDG-PET 検査における正常分布の検討

加藤 貴司\*      塚本江利子\*      杉並 裕子\*      高野 晶寛\*  
馬淵 恵\*      吉永恵一郎\*      志賀 哲\*      森田 浩一\*  
加藤千恵次\*\*      足立 至\*      久下 裕司\*\*      玉木 長良\*

\* 北海道大学医学部核医学講座

\*\* 同                      トレーサ情報解析学講座

要旨 FDG による全身 PET 検査にて、正常分布を知ることは悪性腫瘍の診断に際し重要である。28 例の健常ボランティアを対象に、各臓器や部位への集積とそれを引き起こす要因の検討を行った。吸収補正を行わない emission scan より得られた画像を用い、口腔、喉頭筋、甲状腺、後頸部の骨格筋、肺門、心筋、肝臓、脾臓、食道、胃、大腸、骨髄の集積を視覚的に 4 段階に分類し、各々の集積の程度と年齢、絶食時間の関係について検討した。甲状腺、食道、脾臓への集積はみられず、逆に口腔、肝臓、胃、大腸の集積はすべての対象で認めた。集積の個人差は喉頭筋、後頸部の骨格筋、心筋に著明であった。集積の程度と年齢に関連は認めなかった。心筋に高度の集積を認めた群で絶食時間は有意に短く、遊離脂肪酸値も低値であった ( $p < 0.05$ )。喉頭筋、後頸部の骨格筋、心筋の集積は個人差が強く、読影には注意が必要であった。また今回の検討では心筋の集積と絶食時間、遊離脂肪酸値の関係以外に集積に関与する因子はなかった。このような健常例を対象とした FDG の全身分布の検討は、悪性腫瘍の診断に際し役立つものと考えられる。

(核医学 36: 971-977, 1999)